

腫瘍組織内における KL-6・IL-6 およびシアル化糖鎖抗原・シアル化関連酵素の産生能についての病理組織学的な検討とその臨床的影響に関する研究

1. 研究の対象

2014年1月～2024年1月に当院で手術ないし生検を受けたがん患者様であり、かつ血清 KL-6 ないし IL-6 値を測定していることの両者を満たす方です。ただし、間質性肺炎を有する方は対象外となります。

2. 研究目的・方法

目的：Krebs Von den Lungen(KL)-6 は、腫瘍細胞表面に多く発現しているシアル化糖鎖抗原と呼ばれる物質の一つで、抗腫瘍免疫の抑制や腫瘍細胞の転移能に深く関わっており、血液中の KL-6 値が担がん患者の臨床的悪性度と相関を認めたという報告も散見されます。また、炎症によって産生される Interleukin(IL)-6 という物質も、腫瘍増殖や血管新生、浸潤・転移について関与しており、血中 IL-6 高値が全生存期間および無増悪生存期間などの生命予後に関する項目で悪影響を示すこと、および血中 IL-6 値が予後予測に有用であることなどの研究結果が示されています。また、IL-6 は前述 KL-6 などのシアル化糖鎖抗原の発現を減少させるとの報告もあります。しかし、血中 KL-6 および IL-6 と、腫瘍組織内におけるシアル化に関わる酵素(シアル化関連酵素)やシアル化糖鎖抗原の発現との関連性は不明な点が多いことから、本研究では腫瘍組織における病理組織学的な KL-6 および IL-6 産生のメカニズム、およびその臨床的な意義との関連を明らかにしたいと思います。本研究により KL-6 および IL-6 高産生性腫瘍の病態が明らかになり、新規バイオマーカーや治療薬の開発に繋がることを期待されます。

方法：2014年1月～2024年1月の間に当院で手術ないし生検を受けたがん患者様であり、かつ血中 KL-6 ないし IL-6 値を測定していることの両者を満たす方(ただし、間質性肺炎を有する方は対象となりません)を対象とし、すでに生検や手術で採取された試料に対して免疫組織化学という特殊な染色を用いて、KL-6、IL-6、シアル化糖鎖抗原およびシアル化関連酵素の発現を評価します。

免疫組織化学による評価のため、染色性によるグレード分類を作製し、このグレード分類の結果および臨床情報に基づいて主要評価項目および副次的評価項目を検討します。

研究期間は倫理委員会承認後～2030年1月1日です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

過去に生検・手術で採取・切除され、病理診断を実施した後の残った検体および対象となる方の臨床情報(血液検査結果、既往歴など)

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

高知大学医学部医学科病理学講座

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

担当者：市原大聖(研究責任者)

Tel: 088-880-2330

研究責任者：高知大学医学部医学科病理学講座 市原大聖